

通学児童の見守りを通じた 世代間交流の実現と表彰制度の確立



宇部市地域計画推進体 立石英一郎(株式会社ニュージャパンレヅジ) 上原賢祐(山口大学)

やりたいこと

- 子どもたちの登下校の見守りを通じた世代間交流の活性！
- ボランティアで活動している立哨者を表彰できる制度！

これらの実現のためにスマホアプリを実装し社会制度化を目指す！
 <システムの大きな内容>



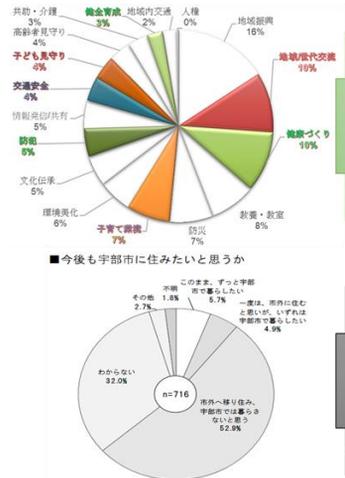
- ①交流：登下校時の子供たちのもつQRコードを立哨者の持つスマホでスキャンする
- ②記録、③表彰：スキャンデータ+校区別住民基本台帳をもとに、表彰制度を作る
- ④確認：子どもの安全確認だけではなく、①の交流により3Dキャラクターが進化していくという子どもが楽しめる仕掛けがある



宇部市を思い出のある町に！！

その理由

以下のグラフは宇部市内の各校区が推進している活動と、平成27年に高校生に実施した定住意識アンケートです。



山口県宇部市の地域計画を紐解くと、**43%**が「子どもの見守り」に関わっている

若者の宇部市定住意識が低い

「子どものころだからこそ、地元の世代間交流と宇部市ならではの思い出が必要！！」

宇部市の地域計画の43%を占める「子どもの見守り」には、地域住民の積極的な協力が必要

立哨ボランティアに注目

- 子どもたちが巻き込まれるおそれのある事件事故を防止
- 子育て世代の親をはじめ、地域全体に安心を与えている
- 高齢者世代の地域活動の参加による活性化
- 多くのメリットがあるにもかかわらず無償で活動している

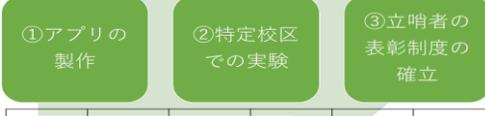
アプリによって実現！

- ☆「宇部市ならではの思い出」をつくるため、子どもたちと立哨ボランティアが交流する仕掛け
- ☆ボランティアの見える化→表彰へとつながる仕組み

実現の流れ

アイデアが実現にいたるプロセスとして、以下の3つをふむようになります。

地域計画推進のための本アイデアが実現にいたるプロセス



- ① 世代間交流かつ表彰を行うためのアプリの作成(宇部市のアプリコンテストでプロトタイプを作成済)
- ② 特定校区の選定、説明会、社会実験とフィードバック立哨時の交通安全に影響がないか？などの調査
- ③ 利用校区の拡大、行政の協力による表彰制度の確立

～実装したスマホアプリと3Dビューアの紹介～

←立哨者設定画面や、ランキング画面(ボランティア活動の見える化の一環)



→交流をすることで成長する3Dキャラクター、交流の動機付けになる